


ふりがな 氏名	おざわ いぶき	都道府県	東京都	
	小澤 いぶき			
所属/肩書	さいたま市こころの健康センター／ 児童思春期精神科医			
私の ESD活動	育ち・学びの中で多様性を体験し、共存しながら 生活する、社会に新たな価値観を創り出すコミュ ニティ作り			

### 活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

児童精神科医としての経験の中で、社会参加する以前に安全な育ちの場や学びが保障されていない子供が少なくないこと、そのような子供達が本来持っているレジリエンスや育つ力を発揮できる環境も少ないことを感じた。

また、東日本大震災により既存のコミュニティが崩れ、虐待やDVが増加し、大切な安心基地がなくなっている状況に対しても、このような視点でも考えていく必要があると感じている。

これまでに地域や医療機関や行政機関と共に、

- ① 上記のような子供達の居場所や学びの場作り
- ② 親及び子供達に関わる周囲の大人たちへの啓蒙・ネットワーク形成
- ③ 子供達が自らの将来を自主的に選択して行ける環境作り

を主に行ってきた。

さらに、子供達が生きていることを承認されながら、自分の生き方、在り方を主体的に選んでいける仕組みを作るために、

・子供達の成長過程に多様な育ち、学びを生み出す

・多様な育ちや学びのエコシステムが地域にあり、その多様さが当たり前を受け入れられる価値観がある

ことが必要だと考え「多様性と共存しながら育ち学ぶ家族機能補完型生活コミュニティ」創りに取り組んでいる。

多様なバックグラウンドを持つ個人、家庭が暮らす新しいコミュニティで、ファミリーホーム、ドロップインハウス(家にいることが難しくても安心して泊まることのできる機能を有する家)、食事や会話・学びを共有出来るスペースを有し、誰もが承認され、社会と自分を繋げていけるという価値観を大切にする。

独創性・革新性:このような社会層で分断されない生活の場がこれまで日本にはなかった点、多様な家族、育ち、学びの在り方といった既存の価値観だけに捉われない点などが挙げられる。

成果:南三陸においての子ども達の第二の育ちと学びの場づくり、及び新しい教育の形の在り方づくり。東京においてコハウジングのモデルを考案し、部分的なプロットタイプを行いながら継続的に行える場所を見付け交渉中である。

現在準備中

### 今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

多様な価値観を知り、それと共に在る在り方の身近なモデルとなる。またそれが経験できるコミュニティ創りを地域と共に行う。このようなコミュニティで過ごした子供達が、世界の中で多様なエコシステムを創り出す実践者となるというサステナビリティが生まれる。

若者は子供達の身近なモデルとなり得、共に様々なことを体験しながら、価値観の多様さを肌で感じる経験を作り出す。子供達も、普遍的で評価のない、誰もが体験できる遊びを入口とし、その興味の先にある学びも体験しながら、大人と共に多様な在り方を楽しみながら知り、他者との関係の中で自己を知っていく。このような体験の中で自分の知らない価値観や多様な在り方を学んでいく。

また、地域からみえる課題を世界の中の地域という視点で対話していく中で、子供達に、世の中には様々な人がいて、様々な価値観があることを感じていく場を創りながら、子供達が自分達で考えていく経験をうみだす。